

ペアンハート マイヤー

- 1959年 出生
1978年 写真学、グラフィックデザインの専門分野を徹底研究、ガラス加熱作業を試み、手工芸又は工業にたずさわり様々な実地訓練を重ねる。
1982年 ソルトウーシュトールベックスホルンに独自のアトリエ所有、ガラス工芸に関する実用的基礎知識を習得する。
1984年 ハノーバー市に私有のアトリエを設立、フリー工芸家として活動を始める。それ以来春期、秋期、フランクフルト見本市に出品する。
1988年 ハノーバー市内にギャラリー“ガラスハート”を開設、店内に設置されたアトリエを利用し、ガラスとデザインをテーマに定期的に展示会を行う。
1990年 ニーダーザクセン州美術工芸労働共同組合の一員となる。
“ドイツ美術工芸”特別展覧会、ニューヨーク国際ギフトフェアに出品参加。

展示会 ドイツ国内及び国外

1987, 1988, 1989, 1990年フランクフルト見本市にて
“デザイン賞”を受賞

1990年 ニューヨーク国際ギフトフェア“ドイツ美術工芸”特別展覧会

1991年 ニューヨーク国際ギフトフェア“ドイツ美術工芸”特別展覧会

1991年 東京アジア見本市

1991年 見本市“パース”パリ

カタログ “ガラスの吹き込まれる瞬間”

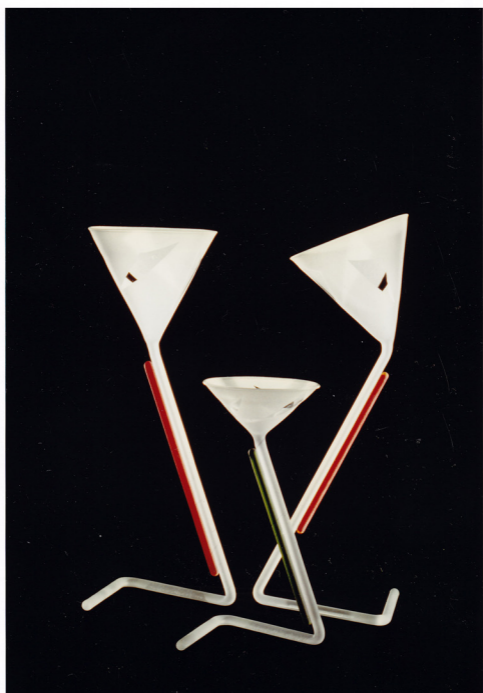
モニカ・ボークワード ブリーメン出身

作業範囲 主に加熱器により容器その他の作品作成

それ以外冷間加工融合作業

各作品独自のデザイン着色により作成され記号と番号が記入される。

作品例 水差し、グラス、皿、小びん、ペーパーウェイト その他



1200度に加熱された
蜂蜜状のガラスから
こわれやすい小びん、
グラス、水差しが誕生する。

脱い原体

ガラス工芸家ペアンハート・マイヤーの国際的認識

ハノーバー市出身のガラス工芸家ペアンハート・マイヤーはニューヨーク国際ギフトフェアにおいて、初めて海外のより広い社会に彼の作品を紹介した。ここ数年来、互換性のない彼のデザインが国際的に高く評価されるようになり、フランクフルト秋期見本市においても1987年来連続して優秀な成績を治め美術工芸専門家として認められるようになった。

ペアンハート・マイヤー1959年生まれ、1984年以来ハノーバー市内のガラス工場にてフリーガラス工芸家として活動を始める。1988年9月よりハノーバー旧市街にギャラリー“ガラスハート”を開店、独立する。ダンスホールやライネ川を望む恵まれた環境の中で作品創造への新しい閃きが生み出される。作品が出来るまでの作業行程が誰にも観察できるように店内の一部にアトリエが設置されている。本来の仕事のかたわら国際的ガラス工芸家として特に優秀な作品を公表している。加熱器前での解放された作業が特に彼の美的感性をかもしだし繊細な作品が生み出される。2mmの厚さのガラス管が1200度以上で加熱され原形が出来上がる。その加熱作業の間“ガラスが蜂蜜のように流れる”とマイヤー氏は語っている。様々な形を生み出す原料の魅力が工芸家を常に驚かせ、かつ生気づける。“形成と着色作業がもっと大きめの作品にも適用出来ることを私自信で発見しました。”と語るマイヤー氏。数年来左右対象形を作成させることもこなしている。実用作品、観賞用作品ともに、円錐形、三角形、ピラミッド型から形造られる。ある部分は金属酸化物で着色され、またある部分は砂吹き装飾法で模様付けられる。最初のコレクション“シメ”の後、しなやかな曲線を出すことに成功する。1986年コレクション“トリ”により液体の特徴をより生かし、傾斜線から成る容器を作成する。小びん、皿、水差し、花びんを公表する。この二つの発見がその後の彼の作品に成果を現した。最新のコレクション“ベント”の作品に無造作にほどこされた余裕のある図柄にもこれまでの成果が見られる。マイヤー氏の今後の企画として近々“ガラスのレンタル”を目標に個々の作品又は、全作品まとめて賃貸斡旋することを予定している。